
シンポジウム7

がん患者のこころを支える

ー各ライフステージの特徴を理解した支援に向けてー

●シンポジウムの趣旨

がん患者は病気や治療に対する辛さ、生活の変化に対する不安、死への恐怖、先の見通しが立たない不確実性など、様々な心理的ストレスを抱えている。このようながん患者の心理的ストレスの緩和に向けた心理支援を実施する際には、がん患者のライフステージを考慮する必要がある。各ライフステージにおいて、就学、就職、結婚、出産、子育て、介護、退職など体験するライフイベントも異なり、また発達課題も異なる。そのため、これらを踏まえて心理支援を実施することが望ましい。また、その支援方法のひとつとして、最近では、動物とのふれあいを通じてストレスの軽減をはかる動物介在療法もある。

そこで、本シンポジウムでは、思春期・若年成人（AYA世代）、中年期、高齢期を通して、各ライフステージにおける心の変化や問題点、がん罹患に伴うストレス、そしてその支援など、それぞれのお立場から4人の先生にご講演いただき、精神科医、看護師、公認心理師といった、各職種におけるライフステージを意識した支援についてご紹介いただき、がん患者に対するライフステージに沿った適切な支援について、動物介在療法も含めて一緒に考えていきたい。